

質問4. 所属する学会についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本ホスファターゼ研究会
※	肝臓学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本薬学会
※	日本植物学会、日本植物細胞分子生物学会、日本育種学会、日本農芸化学会、植物化学調節学会
※	日本農芸化学会、酵母遺伝学フォーラム
※	日本血液学会
※	日本放射線影響学会、日本放射線腫瘍学会生物部会
※	日本内科学会、日本血液学会、日本病理学会
※	ASCB
※	日本薬理学会 SfN
※	日本ウイルス学会
※	亜鉛栄養治療研究会
※	日本ウイルス学会
※	日本化学会
※	日本解剖学会
※	日本病理学会、日本脳神経外科学会、日本がん転移学会、日本ヒト細胞学会
※	日本ウイルス学会
※	日本内科学会
※	生物工学会、動物細胞工学会
※	日本蛋白質科学会、日本薬学会
※	日本薬理学会、日本生理学会
※	日本ゲノム編集学会
※	臨床ストレス応答学会
※	日本生物物理学会、日本蛋白質科学会、ケミカルバイオロジー学会
※	日本糖尿病学会
※	日本実験動物学会
※	日本動物学会
※	農芸化学会、食品免疫学会、乳酸菌学会
※	日本動物学会、日本蚕糸学会
※	日本神経化学会 日本組織細胞化学会 国際神経化学会 ほか
※	日本人類遺伝学会
※	日本体力医学会
※	日本生理学会、日本肥満学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会
※	日本神経化学会
※	日本病理学会
※	日本RNA学会
※	日本蚕糸学会、日本応用動物昆虫学会
※	日本農芸化学会
※	日本水産学会、日本農芸化学会
※	感染症学会、性感染症学会、細菌学会、ウイルス学会、ゲノム微生物学会、臨床ウイルス学会
※	クリニカルバイオバンク学会
※	日本RNA学会、日本ゲノム微生物学会、極限環境生物学会
※	日本農芸化学会 日本時間生物学会
※	日本薬学会
※	日本生理学会
※	日本骨代謝学会アメリカ骨代謝学会
※	日本農芸化学会、日本栄養食糧学会、日本毒性学会、日本フードファクター学会
※	日本微生物生態学会、日本農芸化学会
※	情報処理学会
※	日本環境変異原学会
※	極限環境生物学会、微生物生態学会、酵素工学研究会、
※	日本骨代謝学会、日本炎症再生学会、日本血管生物医学会
※	日本ミトコンドリア学会、日本RNA学会
※	日本農芸化学会
※	蛋白質科学会
※	日本エピジェネティクス研究会、環境ホルモン学会
※	バイオインフォマティクス学会
※	日本骨代謝学会アメリカ骨代謝学会
※	日本放射線影響学会
※	日本ゲノム微生物学会、日本進化学会、日本農芸化学会
※	日本衛生学会

質問4. 所属する学会についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	実験動物学会、繁殖生物学会、
※	エピジェネティクス研究会
※	日本解剖学会日本骨代謝学会
※	日本ゲノム変種学会、日本植物細胞分子生物学会
※	日本再生医療学会、日本バイオマテリアル学会
※	日本植物病理学会
※	日本動物学会、日本水産学会
※	生理学会
※	日本再生医療学会、日本人類遺伝学会
※	日本RNA学会
※	日本農芸化学会、日本植物学会、日本植物細胞分子生物学会
※	日本農芸化学会、微生物生態学会、日本腐植物質学会
※	日本循環器学会
※	日本農芸化学会、日本エピジェネティクス研究会
※	日本宇宙生物科学会
※	日本進化学会、日本人類学会、日本霊長類学会
※	人工知能学会
※	日本筋学会
※	日本農芸化学会日本育種学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本植物学会
※	日本農芸化学会、日本育種学会、日本ゲノム編集学会
※	日本畜産学会、日本養豚学会
※	日本RNA学会
※	日本血液学会
※	日本体力医学会
※	日本骨代謝学会基礎歯科医学会
※	日本RNA学会、日本進化学会、RNA Society、American Association for the Advancement of Science (AAAS)、American Society for Microbiology (ASM)
※	日本人類遺伝学会
※	日本農芸化学会、日本応用動物昆虫学会
※	日本実験動物学会
※	日本環境変異原学会 EMGS(北米変異ゲノミクス学会)
※	日本放射線影響学会、日本保健物理学会
※	日本農芸化学会
※	日本RNA学会
※	日本生理学会、日本病態生理学会
※	内科学会、循環器学会
※	蛋白質科学会、結晶学会
※	日本ゲノム微生物学会日本農芸化学会
※	日本蛋白質科学会、日本化学会
※	エピジェネティクス研究会
※	日本農芸化学会、日本糖質学会
※	日本血液学会
※	日本物理学会
※	なし
※	日本農芸化学会、日本土壌肥料学会
※	日本農芸化学会Pacific Congress on Marine Science and Technology (Pacon)
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本動物学会
※	日本RNA学会
※	日本循環器学会、日本小児循環器学会
※	日本RNA学会

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者 番号	テーマが偏っている記述
※	似たような内容のものや、はやりのキーワードを並べて一貫性のない発表の寄せ集めたものがあった。
※	毎年、同じ先生または研究グループのメンバーがオーガナイズしているため、シンポジウムの内容が偏っているケースがある。オーガナイザーの選定方法を大きく見直すべきだと感じている。
※	医学・疾患生物学に寄りすぎ
※	生殖細胞のテーマのシンポジウムがなくて残念
※	神経系がない
※	毎年金太郎飴のように同じようなシンポジウムがちょっとだけ名前を変えて発表者も同じ。
※	神経科学が少なすぎます。完全に内輪のセッションが多く見られました。
※	植物や微生物に関するテーマが少なすぎる。比して動物のテーマが細分化されすぎている。(植物や微生物がそれだけ活発ではないのかもしれないが・・・)
※	開催されているシンポジウムは重要なテーマのものが多いが、微生物関連の研究成果を取り上げたテーマがほとんど無いので、微生物に関連するテーマも取り上げた方が良いと思う。
※	ワークショップとシンポジウムを別枠にする意味が一般の参加者にはわかりにくく、ワークショップの多様性に対してシンポジウムの内容が偏っているように感じます。
※	基礎系の学会なのに、应用到絡んだテーマが多すぎる
※	微生物、植物に関連したテーマがあっても良いように思った
※	植物系のテーマが少なかったですね。
※	参加しなかった
※	いつも同じ人がシンポジストになっている。
※	毎年同じ様な内容の発表
※	毎回特定のグループが似た内容で座長だけを替えて回しているので新鮮味が無い
※	基本的に、同じ研究者が発表する機会が多いため、一部の研究者のシンポになっている。ワークショップで、新学術とか共催するのは特定の方だけのための会となり、最悪である。
※	毎年同じ様な話題となっている。テーマを決めて、シンポジウムの数を減らす。
※	自身が希望するテーマはなかった。
※	興味を持てるシンポジウムがない。毎年同じようなものが多い。
※	医学分野が多いように感じた
※	同時進行のシンポジウム、WSの数が極めて多く度の会場に行ったらいいのかわかりにくい。自分にぴったりのテーマの会場はあまりなく、2-3カ所の会場を動き回ってザッピングした。新学術のようにオーガナイザー、演者が代わり映えしないものも散見した。思い切ってプログラム委員会主導でテーマとオーガナイザーを指定して新たな切り口を工夫しても良いだろう。
※	微生物分野が縮小している。幅広い生物、分野のシンポジウムを望む。
※	生化学会との棲み分けを意識しているような気がした。脂質関係や地道なものの取りの仕事を避けているように感じた。
※	原核生物の基礎研究の発表が、年々減少しているように思います。そういった点からの、テーマ設定の工夫は出来ないでしょうか。

質問5-6. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	似たような分野が同じ時間帯にならないようにしてほしい(ワークショップも含め)。逆にいうと、似たようなテーマが同じ時間帯になるということはテーマが偏っている可能性もある。
※	テーマをさらに増やしてもいいと思う。
※	偏っているとまでは思わないが、有力研究者が各セッションを主催するというシステムにより、(日本では)マイナーな研究分野が目立たなくなるという弊害を感じる。
※	ただの研究報告会ならいい。
※	ワークショップよりもシンポジウムの数を増やして欲しい。
※	質疑応答が静かすぎます。質疑応答をまず、学生、ポスドク、そして、常勤研究者という風に順番付けしたら学生たちの発表もしやすくなるのではないのでしょうか。
※	海外からの人が参加できる英語発表が少なく、呼んでも他の議題で議論できない。
※	日本語のシンポジウムを増やしてほしい
※	公募のシンポジウムの割合を増やしたほうがよい
※	参加しなかった

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	90分は短く感じた。
※	ずいぶん偏っている印象でした。
※	同じ分野のワークショップを同じ時間帯にセットするのは極力避けてほしい。聴衆が取り合いになり、非常にもったいない。午後のワークショップはせめて6時半に終了したほうがよい。7時までというのはやや遅い。今回、120分と90分のワークショップがあったが、少なくとも午後はずべて90分でもいいのでは？聴衆からすると、120分ぶっ続けて聞き続けるのは非常にきつい。生理的に90分が限界。
※	議論が盛り上がらない演題も散見されたので、演題の選択に改善の余地があると考えられる。
※	会場の大きさと、テーマが合っていないかった。チェアラーが共発表者となっている演題がほとんどとなっているテーマが見受けられ、内容が偏っていた。招待演題が多すぎる。
※	ポスター発表者からの採択者数をさらに増やすべきだと思う。
※	入りきらないセッションもあった。会場の大きさ問題は事前にある程度予測はつかないのでしょうか。
※	生殖細胞のテーマのワークショップがなくて残念。ポスターからの採用もなかった
※	一部WSの時間がかなり遅かった。
※	聴講者が入りきらないセッションがあった
※	シンポジウム、ワークショップ共に、毎年同じような人が座長や発表をしている例が多い。複数回採択された人は来年は優先順位を下げるなどの工夫が必要。一般演題から口頭発表に選ばれた人が少なかったのが残念。
※	一般演題から採択された演題は、指定演題に比べてレベルが低いように感じた。それにもかかわらず、一般演題から一定数採択する枠を強制したことで、今年のワークショップのレベルは昨年に比べて大いに低下したと思われる。一般演題からの採択枠を設けることは良いと思うが、割合を強制するのは良くないと思う。講演の質を担保することの方が重要だと思う。
※	一般演題からの採択者の公演時間(7分)が短すぎる
※	もう何年も同じ人がワークショップをやっているが、さすがにいかがなものかと思う
※	参加できなかったので、分からない。
※	毎年金太郎飴のように同じようなシンポジウムがちょっとだけ名前を変えて発表者も同じ。
※	若干テーマに偏りがあった。例年と比べ個体レベルの話が少ない印象だった。
※	総会と時間がかぶっているのはよくない。
※	夜遅いセッションが多かったような気がします。
※	とあるWSでは、オーガナイザーのひとりがほとんどの演者の共同研究者として名前が入っており、正直興ざめました。
※	座長の顔ぶれや選ばれた演者の顔ぶれが毎年ほとんど同じであり、女性や若手の新しい座長・演者の登用が少ないのが残念である。
※	セッションによっては演者が多すぎて一人当たりの時間が短すぎると感じた。
※	テーマの関連性が高いワークショップが同日開催の場合は、時間帯をずらすか、会場を同じフロアにするなどして移動の負担にも配慮したスケジュールにしていたかと助かる。
※	スクリーンを低い位置に設置していた会場があり、前列の人にかくれてスライド資料が見えなかった。
※	テーマは、少し偏っている気がする。もう少し基礎的なもの、分子生物学的な内容があってもよいかと。ワークショップによっては、質問の時間が短すぎるものがあった。もう少し議論を深める機会をつくる必要があるかと。一般演題から、一つは少ないかも。似たような学会である生化学会で同じようなワークショップ、似たような演者をしないでほしい。
※	興味ある分野が同じ時間にあった場合が多く、移動に苦労しました。午前午後共に2セッションずつして、同時進行を減らしたらいかがでしょうか。また、終わる時間がセッションごとに異なっているのも、その後の予定を立てる上で大変でした。
※	午後のポスター発表の後に、ワークショップ2枠とフォーラムの3連続は体力的に厳しいものがあるので、ワークショップ1枠にした方がよい
※	第8会場では、部屋に柱があり、満席時にはスクリーンを一部しか見ることができなかった。難しいとは思いますが、もう少し工夫して頂けると幸いです。
※	是非、血管生物医学会との共同ワークショップは来年も続けて欲しい
※	ワークショップは一時間以内にしてほしい。無理やり感のある話題が多い。15分×4か、20分×3で十分。
※	若手オーガナイザーが多くて、独創的で面白く、また全体的に演者も若くて良かったです。
※	ポスターからの採択数を増やした方がよい。今回のスタイルは、これまで内々に決めていたワークショップと変わりなかった。演題を広く採用すべき。
※	一般演題からの採用が少なかったように思える。
※	ワークショップオーガナイザーを担当したが、一般演題採択後に最終プログラムを提出した際、発表者に時間配分(発表と質疑)を伝える方法が不明確だった。今回は自分で発表者の連絡先を調べメールで連絡したが、プログラム作成時に発表+質疑を記載し発表者に伝わるようにして欲しい。
※	選び方に偏りがある
※	分野に近いワークショップやシンポジウムが同じ時間帯に開催されていて参加しづらかった
※	会場の広さと参加者の数を読み違えている会場が多く見受けられた。
※	一般演題から採用できないのは内輪のグループでワークショップを利用しているからでは？
※	重複する話題が多く数を減らすべきと思う。学会推薦枠と公募枠を設けるなど工夫すべきと思う。
※	もう少しセッション数が多い方がよい。
※	ワークショップの時間が短すぎ、一般演題からの採択もほとんど取れない。
※	参加したいワークショップの時間帯が重なることがあるだったので、類似のワークショップを分散させてほしい。
※	一部のワークショップの時間が短く、セッションが盛り上がり損ねたのでは。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	時間帯については、再考してほしい。日帰りで遠方から通っている参加者がいることも考慮してほしい。
※	シンポとWSの違いはさほどないと思う。一般演題からの採用数の数値を知らないのでなんとも言えないが講演の機会を与えるのはモチベーションアップにつながる。
※	複数同時進行で忙しすぎる感があり、一旦疲れてしまうと、ついて行くのがしんどい。
※	毎年、同じような人やグループが採択されており、採用が偏っている。
※	ワークショップが短めなのはメリハリがあってよかった。多くの演題を採用できるように、数を増やすか時間を延ばすかできるとよい。

質問7. ディスカッサー制についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ディスカッサーとして回ったが、基本的にどのポスターも常に議論されていて、ディスカッサーの必要は全くなかったと言える。そもそも科学において起爆剤がなければ議論がおきないような研究では不十分。
※	Late-breakingはそもそも不要。
※	各時間帯、最初のポスターだけはディスカッサーが進行してポスター発表ができ、討論も活性化したが、他のポスターはすでに他の参加者への説明中で、割り込まなかったので、あまり役目を果たせたかどうか分からない。例えば、前半はディスカッサーとともに1枚ずつポスターを見るような形式でもよいかと思う。
※	特に必要はなかった。
※	大して興味もないのに、無理にわざわざ質問してくれなくていいと思った
※	居たようには思えなかった
※	ディカッサーが来なかった
※	ディスカッサー、来ませんでした
※	ディスカッサー制でないところもあったと思う。不要だと思う。順番に回るというより、人がいないところにだけ聞きにいってあげれば良いと思う。それが、桜として働くようになれば、それで良いと思う。そうするならば、担当の方の名前の記載も不要となり、お手伝いするもしないも担当の方の良心次第ということが良い。担当の方も、土壇場で忙しくなることもあるでしょうし、この仕事自体はボランティアですよね。それくらい、ゆるくすれば担当の方を若手の会あたりからの人選もできるのではないのでしょうか。
※	是非、ポスター賞を設けてほしい。ポスター賞があると、学生の意気込みが明らかに向上する。
※	ディスカッサーがきていないところもあったように思えます。
※	参加していないがディスカッサー制は不要だと思う。
※	なくても良いと思う。ほとんど機能していなかったように見受けられる。
※	ディスカッサー制度は不要だと思います。
※	前向きなディスカッションでなく、プロジェクト全否定＝クレームに近い討論をしてくるディスカッサーは不要だと思う。
※	なくてもいいと思う
※	今年度は参加できなかったのですが、分からないが、例年mディスカッサー制度はあると良いと感じている。
※	ディスカッサー制は無駄。それよりもポスター発表の割り振りを4部制にして各ポスター発表者が30分位ポスターの前にいるようにしてほしい。2部制だと発表時間にもかかわらず発表者のいない時間が長すぎる。
※	以前のように、ポスター賞があっても良いのかなと思いました。
※	一応、ディスカッサーは回ってきたが、個別に説明を聞きに来ている感じだった。あまり機能してなかったように思う。
※	ないよりあるほうがいけれど、ポスター賞の選考とかを兼ねていたほうが真面目に見られたと思います。
※	私のところへディスカッサーは来てくださりませんでした。常に誰かしらと議論していたので、必要ないと思われたのかもしれませんが、ディスカッサーを担当できる著名な研究者の方との議論を楽しみにしていただけに、とても残念に思います。
※	ディスカッサーはいなかったが、活発に議論できた
※	ディスカッサー制は不要。する側も負担であり、される側も迷惑。
※	ディスカッサー制が有る年会と無い年会があるが、有る/無いは統一したらどうでしょうか？有るなら有るで、分子生物学会は「ディスカッサー制が有る学会だ。」と認知されるのは良いことだと思います。
※	ディスカッサーを担当しましたが、担当時間に来られていない発表者が多かったので、厳密な発表時間を発表者に知らせた方が良いのではないのでしょうか。
※	ディスカッサーが発表時間外に来て、説明を求められたり、計臆するならば、もう少ししっかりとした制度にしないと、意味がない。
※	Late-breaking abstractsのポスターの場所を通路側の壁面に配置しなるべく該当分野に近い位置で閲覧できるようにしてもらいたい。見る側としては、Late-breakingは発表の質と関係がないので移動に時間がかかるのは負担になる。
※	ディスカッサーがいなくても盛り上がっているポスターもあれば、ディスカッサーがいるのに発表者が立っていないポスターもあった
※	ポスターによっては、既に聴衆が多くなるものもあったので、ディスカッサーの自由裁量で、聴衆が少なそうなポスターを中心に活性化するのも良いように思う
※	ディスカッサーは若手ポスターなどにするのが良い。
※	参加しなかった。ディスカッサーの負担が大きくて絶対やりたくない。
※	ディスカッサー制は無意味。仕方なく聞きに来ている感がありありで、正直不快だった。しかも、議論にもならなかった。ポスター観覧者がいなくても、話題が面白くないんだと納得するので問題ない。無理やり議論してもらう方が不快。
※	参加していないので、実際の成果はわからない
※	前の聴衆とディスカッション中に、ディスカッサーが来られると、ディスカッションが中断あるいは終了してしまう。各ポスターに時間指定をしておくといいかもしれません。また、ディスカッサーは若手の方がいいと思います。
※	ポスター発表を行ったが、ディスカッサーの先生と会わなかった。
※	ディスカッサーが来られなかった。
※	ディスカッサー制は良いのですが、タイミングによっては一部のポスターに時間を取られたり、なかなか観れないポスターがあったり、時間調整が難しいので、ディスカッサーが聴衆を連れて5分ずつ巡回するようなスタイルにしてもらった方が、ポスター演者も時間調整しやすいし、ディスカッサーが手持ち無沙汰にならないと思います。
※	いてもいなくてもあまり関係ない。

質問7. ディスカッサー制についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ディスカッサーを担当したが、活動内容及び時間が曖昧で他のポスターを見る時間に支障があった。今後ディスカッサーを設けるならばポスター発表の最初の15分なりに限定し全ポスターを均等に回るなどの枠組みを設け発表者にも周知して欲しい。
※	全く必要ない。誰の特にもなってない
※	ポスター会場が大きすぎ、発表も多すぎるのは否めない。
※	ディスカッサーには負担ではあるが、ポスター発表者(特に院生)にとって、誰も来てくれない時の失望感は計り知れない。ディスカッサーとして建設的な議論をリードするのは、研究者(特に常勤)である会員の務めではないか。
※	今回は、議論が盛り上がっているポスターには特に行く必要はないなどのガイドラインが示されていたため、担当ポスター以外のポスターを見に行く余裕もあり、よかった。
※	ディスカッサーに会えず、機能しているように思わなかった。
※	ディスカッサーがいないところもあったのではないのでしょうか
※	ディスカッサーが来なかった。
※	特に必要なかったように思います
※	ディスカッサーの存在は実感できなかった。
※	ディスカッサーを務めた立場からの意見です。熱心に話し込む余り、一対一の対話にのめり込み他の聴衆に注意を払えない演者が目立った。出来るだけ多くの方に聞いてもらうという点で損をしている。短時間(3分程度)で簡潔にtake home messageを伝える準備をしてほしい。
※	良くないとは言わないが、不要だったと思う(なくても活発な議論がなされたので)。
※	会場には多くの方がいましたし、不要と思います。
※	会場でのディスカッサー登録案内のアナウンスがちょっとうるさかった。
※	ディスカッサーが個人的にポスター発表者に張り付き、ずっと1対1で質問をされていたので、他の方がかなり待たされました。その先生はご自身のディスカッションが終わるとさっさと次のところへ行ってしまうされました。ディスカッサーの人選と役割の明確化が重要だと思います。
※	自分のポスター発表のときには、ディスカッサーが来なかったように思う。
※	必死に研究した結果を発表する場で、聞きに来る人が居なくて悲しそうにしている学生を見ると辛くなる。ディスカッサー制度で救済してあげるのは良いことだと思う。
※	しくみがよくわかりません
※	活発な議論が起こるかどうかは、研究テーマ、ポスター内容(分かり易いか否か)、演者の説明の巧拙とやる気、に強く依存してしまっていて、人気の無いポスターの話し相手以上の役割は果たせなかった、というのが、ディスカッサーを担当した感想です。ディスカッサーに非協力的な演者が少なくなかったことが、とても印象に残りました。
※	シンポジウム等で話を聞くのも勉強にはなるだろうが、ポスター発表でディスカッションをすることが若い研究者にとって一番アクティブラーニングになると思う。ポスター会場に熱気があってよかった。
※	ディスカッサーとして参加したが、担当する演題を回りきらなかった。
※	ディスカッサーとは話ができず、残念だった。

質問8. 一般演題全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	いつも思うことだが、最終日はかわいそう。
※	ワークショップに採択される率が少なすぎる。
※	生殖細胞のテーマのワークショップがなくて残念 ポスターからの採用もなかった
※	WSは予め決まった演者で行う方がいいと思います
※	ポスター発表の分野・領域を分散させずにもっと1日に集約してほしい
※	参加できなかったので、分からない。
※	採択演題数は決めたほうがいい。今の状態はとても良くない。玉石混交ならまだしも糞の塊が多数紛れ込んでいる。全く機能していないプログラム委員会など止めてしまえ！
※	ポスターで時間外で発表している人、関係ない話を大声でしている人などを、大会のスタッフが注意するべき。うるさくて発表者の声が聞こえない。
※	例年と比べると工夫されていた感じはあるのですが、似た話題で、同じタイミングでシンポジウム&ワークショップが重なるどちらかしか見れないのは残念だった。
※	午後のワークショップとワークショップの間にもう少し時間を空けてほしい
※	Late-breaking abstractsに採択された課題の一覧を配布して欲しい。検索に追加するだけでは、不十分。
※	ワークショップに採用されたら、ポスター発表は免除してほしい。
※	興味ある話題が同じ時間にいくつも開催されていた。それ以外の時間は暇だった。
※	17時くらいまでにしてもらって、4日間の方が良い。
※	ワークショップだけでなく、前回のような、口頭発表枠をつくって欲しい。
※	一般演題から口頭発表への採択数が少なかったように思える。
※	演題エントリーのページに通信欄がなかったように思うのですが、要望を書く欄があるとよかったです。今回はポスターとともにナマの植物を展示したのですが、発表日が最終日だったので枯れないかヒヤヒヤしていました。
※	3日目は工夫が必要
※	セッションの時間帯を午後には振り分けてくださったおかげで、ポスターセッションが全体的に盛り上がっていたような気がする。
※	様々な企画が詰まった年会であるので、ポスターセッションの時間帯はこれ以上とれないのではないかな。
※	ポスターからワークショップに採択された場合、同じ日にした方がよい
※	例年のことだが、聞きたいワークショップの時間帯が重なることが多い。

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター発表の直前に貼り、自分の発表時間が過ぎたら直ぐに撤去してしまうポスターがありました(となりの発表者がそうでした)。また夕方早くにはほぼ全てのポスターが撤去されていました。午後一番の時間設定をこれまで経験しませんでした。残念ながら最悪の時間設定だったように思います。短時間の撤去を避けるためにポスター発表は最後に時間にすべきだと思います。次回以降に十分に申し送りをお願いします。
※	ワークショップは全部90分でもいいのでは? 差別化した理由がわからなかった。
※	夕～夜に別用で会場を離れなければならない、夕刻にワークショップが設定されると聞きたい講演を聴けないことがあった。ポスター発表と逆の時間割であれば、融通が利くのだが。
※	特になし
※	午前と午後のワークショップの間に、ランチョンとポスターが含まれ、間延びして夜に疲れ切ってしまった。
※	似た内容がかぶっていた
※	特になし
※	参加できなかったので、分からない。
※	同じ時刻にワークショップのコマが多すぎる。効きたいワークショップが被って聞きに行けない。
※	終わりの時間が遅いと思う
※	ポスター発表後と次のワークショップの間をもう少し空けてほしかった。
※	ポスターセッションは夕方(最後)にすべき。
※	ワークショップの時間帯が遅すぎた
※	金曜日の夕方のセッションがもう少し充実していてもよいかと思いました。
※	演題が多く、聞きたいものがかぶってしまうことが多かった。
※	3日間という丁度よい会期内でコンパクトに配されていてよかった。
※	興味があるワークショップが複数重なり、どれも参加したかったのに選ばなければいけなくて困った。
※	ポスターの時間帯は、夕方以降の方が良いと思う。
※	午前中に海外からの研究者の講演を固められると、聞きたい講演がかぶってしまって、聞けない。バラバラにしてほしい。
※	午後のポスター発表の後に、ワークショップ2枠とフォーラムの3連続は体力的に厳しいものがあるので、ワークショップ1枠にした方がよい
※	参加していないのでわかりません。
※	ワークショップの時間が一律でなく選択肢があったことはよいと思います。
※	参加していない
※	19時以降のセッションも魅力的すぎて、飲み会の予定を入れてしまっていたのが辛かったのが残念です。。
※	午前と午後のセッションの間の時間(含ポスターセッション)が大変長い割にセッション自体の時間(90分)が短い。30分開始を早めて120分で良い。
※	学会の開始時間が遅い。
※	午後に日本語の講演を集めたことで、海外から招聘した演者の先生が「午後は聴講できるセッションがないんですね」とちょっと残念がっていました。
※	ワークショップの時間が90分では、セッションが盛り上がるのは難しい。あまりの短いトークの連続では、それぞれの企画の意義が実現できないのでは。
※	参加していないので良い悪い等の感想は特にありません。
※	120分枠のワークショップを増やしてほしい。一方で、シンポジウム・ワークショップの重複が多すぎる気もする。
※	子どもがいて早く帰らないと行けないため、17時以降のワークショップに全く参加できなかった。17時30分くらいまでにメインのプログラムを全て終えて欲しい。ポスターが以前夕方からだった時は後半全く聞けなかったのが、ポスターが昼だったのはとてもよかった。
※	夜9時までセッションがあるプログラムは止めて欲しい。勤務先の規定で、日帰り出張範囲なので、毎日片道2時間半かかるので、早朝および夕方以降のセッションは実質出席不可能。逆に、宿泊必須な地方なら気にならないのですが。
※	すみません、よくわかりません。
※	ワークショップの時間が遅すぎ、出席できなかった。展示とポスターが同時になっているため、回りたいところに行けなかった。ポスターを一番最後にしてほしい。

質問10. 年会の特別企画について、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	今回、忙しく特別企画を聞けませんでした。
※	参加していない
※	今年の年会は、昨年のConBioに比べて、総じて面白くなかった。興味深い企画や発表が少なく、分子生物学会単独の年会では、生物学全般の面白みをカバーしきれないと思った。今後は、BMBやConBioといった形で、合同大会を増やしてほしい。
※	佐藤優氏講演で、年寄りの懐古的な質問が多かった。講演自体は素晴らしかったが、質問者をなんとかできたら、もっとよかった。
※	基礎研究、大学への予算配分のあり方を、文科省・財務省の官僚(実際に策定に関わる人たちでないという意味がない)と本音で論戦するような企画を期待する。
※	佐藤優氏の講演は圧巻であった。学会長の英断に恐れ入った。
※	参加はしていないが、海外の若手研究者招聘は良い企画だと思う。他の特別講演は、正直分子生物学学会で、わざわざやる必要がないものかと。正直、参加したいとは思わない。それよりも、サイエンティフィックに面白い研究、大事な研究をしている国内外の先生の話をしつくりと聞きたい。
※	学会としての研究環境に関する問題意識や問題提起、議論の場の提供は必要だと感じた
※	参加していない
※	参加していないので、わからない
※	何故佐藤優氏を呼んだのか？怪しげな人である。
※	学会主催のランチョンセミナーは特定の人たちのものである印象が強い。やる意義があるとは感じられない
※	あれだけの講演者は、そう呼べるものではない。毎年期待するのは無理。
※	分子生物学会とまったく関係ない佐藤氏の講演を設定したのは、やや疑問に感じた。

質問11. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて <複数回答可> (要望・その他)

回答者番号	要望・その他記述
※	3日目のランチのレパトリーが少なかった。
※	参加できなかったので、分からない。
※	やる気のないブース展示員はみていて不快。
※	アンケートなどに参加するときに、参加証に記載されたバーコードなどで所属の情報を提示できれば良いと思う。名前カードは若干使いにくかった。
※	情報系(特にデータの保存、管理ソリューション)がもうちょっとあってもよかったかもしれません。
※	バイオテクノロジーセミナーを行う企業側で詳細を把握しておらず、入場券について小さなトラブルがあった。
※	ウェブ予約は今後も続けていただきたい。
※	最新機器の情報が手に入り、非常に助かっている。ラボで購入する機器類の選定にも役にたつ
※	アンケートなどに参加するときに、参加証に記載されたバーコードなどで所属の情報を提示できれば良いと思う。名前カードは若干使いにくかった。
※	もっと有用な最新機器のバイオテクノロジーセミナーを色々聞きたかった。
※	展示ブースが島のような配置で、通路も広く、移動がしやすかったのは良かった
※	ポスターセッションが昼間の時間帯になったことは、企業の方々にとってもプラスだったと思います。
※	メーカーの方々がネームカードの大学名を確認して、積極的に声をかけるか、否か、決めている雰囲気を感じる。
※	数が少なかった
※	同じ関連の会社が並ぶように配置したらもっと良いのではないのでしょうか？
※	企業展示スペースの奥行きが広すぎて、ポスターが遠かった。もっと奥行きを狭めて余kは場を広げれば良いと思う。
※	えらく多いと感じた。それを悪いとは感じなかったが、それにしても相対的にポスター演題がすくない気がした。
※	NBRPブースも良かった。
※	とても盛会でよかった。
※	昔と比べて、量・質ともに劣化している。
※	企業ブースにもっと気軽に立ち寄れる雰囲気があると尚良いと思う。たとえば多くの祭りでは櫓を中心にして露店が取り囲むように配置されていて、全体を見渡しやすい。休憩スペース・椅子・机を中心にして周りに企業ブースを配置してはどうだろうか。
※	プログラム終了後の夕刻以降に、夕食を提供するセミナーが開催されていたが、それが許されるなら、海外の学会であるようなhospitality suiteの方が、オープンな議論の場となって良いと感じた。
※	企業展示は毎年貧弱になってきており、企業のやる気を感じなかった。必要な情報も提供できない伝書鳩のような人をブースに立たせている企業もあり、せっかく訪問しても得られる情報が少なかった。パンフレットを渡すことだけに集中され、荷物が増えて遠くから学会に参加していたので、しんどかった。webで得られるなら、webサイトの案内をしてもらったり、画面を見せて案内してくれるとよかった。

質問12. ITシステム(WEBシステム・アプリ)についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	スケジュールでポスターとその他が分かれているのが意味不明で使いにくい
※	プログラムを探す時に日付、発表形式、分野と3つの選択肢があるが、3選択肢は独立していて絞込みができないのは残念だった。
※	各演題にスケジュールへ登録ボタンが欲しかった
※	基本機能の他にも機能があることを知りませんでした。
※	検索をかけると見ることができるが、何気無く演題を見渡しにくい。
※	アプリはを毎年ダウンロードするのではなくアップデートという形にすることはできないか
※	ガラケーを使っている自分には意味がない
※	参加できなかったので、分からない。
※	ガラケーのため一切関係なかった。
※	会場のWiFiにパスワードがなかったのでセキュリティーが気になって使うのを躊躇してしまいました。
※	キーワード検索結果で表示された演題から選択してマイスケジュールへ登録できないのは不便だった。
※	使用しておりません
※	他の学会でも、このシステムが活用されると良いと思った
※	結局よく見なかった
※	動作が遅い
※	全く使っていない。
※	マイスケジュールの中に印を付ける機能を付加して欲しい。後で何かを調べたりする必要があるときに便利。
※	お気に入り登録したポスターがポスター会場のどの位置にあるかをマーク表示できる機能を復活させて欲しい。(見つけれなかっただけかも)
※	一部機能は形骸化している
※	慣れてきたので問題なし。
※	演者名が日本名しか表示されず、読み方がわからない人が多かったです。英語のセッションでも演題が日本語のため、結局冊子を見なければならなかった。
※	会場内のWiFiが重すぎ
※	いいね、機能がなくなったのは理由があるのでしょうか・・・?
※	今後も使い続けたい。
※	学生は自分のポスターが何人に登録されているかの数字を見てやる気を出していた
※	日程表やポスターの位置からプログラム・要旨検索が出来ると良い(過去にあったように)。
※	以前は学生など若い世代が競って「いいね」を付けていたが、めっきり少なくなったように思う。関心がないというよりは、目新しさがなくなったという理由だと思うが。
※	スケジュールを入れたいのに通知がこなかった。周りの人も来ないと話されていた。検索をもっと使いやすくして欲しい(高度な検索ができるようにする、表記の揺らぎを許容するなど)
※	参加者・発表者検索から演題にとべると、より使いやすいと思いました。
※	古いパソコン、OSでも使えるようにしてほしい。
※	使わなかった。
※	発表にチェックをつけた人が「匿名」と表示されるのは非常に気持ち悪い。匿名にするような人間の情報は全く必要ないので、表示なくて結構。逆にテニユアレベルの人がわざわざ名前を公開してチェックつけてくれるのは発表者にとっても嬉しい。したがってテニユアのひとは原則名前公開しても良いのではないだろうか。ただしお忍びで聞きたい講演もあるので、「発表に興味がある場合に、チェックしたことを公開するか非公開にするか逐一設定できると良い」。
※	モバイル回線やWiFi回線の状態が良くない状況があり、ITシステムのみに頼れず、プログラムブックを手放せないのが辛かった。会場ナビ機能は、見づらくわかりにくく、全く役に立たなかった。
※	プロフィールを公開すると「マイスケジュール」まで公開されるのは問題。プロフィールを公開しない人が多い原因になったと思う。
※	前年より動きが良くなっており、途中でアプリが落ちることもなく、使いやすくなった。早めにアプリを公開してほしい。

質問13. ITシステム・年会プログラム集・ポケット版プログラムの使用状況について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	学会の記録としては冊子が便利だし、重要と考えている。
※	ポケット版プログラムは使用しなかった。冊子版とITシステムの併用が最もニーズに合っている気がする。
※	要旨がPDFダウンロードだと使いにくい。予め時間がある人でないとチェックできない。
※	冊子版は実用上不要と感じたが、出張報告書類にプログラム表紙・当該演題ページのコピーを添付する必要があるため、(PDFでもかまわないが)冊子形態のプログラムは必要だと思う。要旨についてはオンラインでもかまわない。
※	特になし
※	全体的に今一つ使いこなしにくい。学会自体が大きすぎるためかもしれない。
※	(あらゆる)冊子の送付をやめて年会費を安くして欲しい。
※	特になし
※	自分が見たポスターのチェック、WSの感想などの書き込見には冊子が便利。両方あってよかった。
※	複数会場を移動する予定があったときは、冊子体の頁に折り目をつけて聴く発表に印をつけておき、確認しながら移動したので、冊子体があった方が便利です。
※	出張手続き等の関係で、紙媒体の冊子があった方が助かる。
※	ポケット版プログラムは不要
※	参加できなかったので、分からない。
※	もう少しポケット版の内容が多ければより良かったです
※	学会不参加のため、未回答
※	会期中は冊子とITシステムを併用した。冊子もITシステムも、事前のプログラム検索で使用した。冊子は興味のあるトピックスを大雑把に探すのに便利で、ITシステムはキーワード検索やマイルスケジュール管理に重宝するので、どちらも使用したい。ポケット版プログラムはほとんど使用しなかったため、必要ないかもしれない。
※	今回は参加していないからわからないが、参加した方に様子を聞いて、自分なら会期中は荷物がおもくてつかれることが多いので、ポケット版プログラムとアプリ等を使いたい。
※	参加者数が多いので、検索に頼らなければほしい情報にたどり着けません。ITシステムは必須だと思います。
※	冊子版にQRコードをつけて、それをアプリで読み取ると演題の詳細や要旨に飛べるシステムがあれば便利だと思います。
※	年会前・会期中とも主にITシステムを使用し、冊子版はほとんど使用しなかったが、冊子体は数年内は閲覧の機会があるので保存している。継続して欲しい。
※	経費の削減につながるのであれば、冊子は全般的にいらないと感じた。経費が浮くのであれば、会費の値下げか若手研究者の助成金などに充てて欲しい。
※	全員がiPadなどを持っているわけではなく、スマホでは小さくて見にくいところもあるので、やはり冊子版が必要だと思う。ただし、事前にプログラムを見る時には、パソコン上で検索できるので便利。
※	会期中は冊子とITシステムを併用した。冊子もITシステムも、事前のプログラム検索で使用した。冊子は興味のあるトピックスを大雑把に探すのに便利で、ITシステムはキーワード検索やマイルスケジュール管理に重宝するので、どちらも使用したい。ポケット版プログラムはほとんど使用しなかったため、必要ないかもしれない。
※	参加していないのでわかりません
※	ポケット版だけで良い。
※	当日は主にITシステムを使用した。冊子版も会場の場所やディスカッサーの確認などに使用した。
※	ポケット版プログラムは文字が小さくて、読みづらかった。
※	参加していない
※	年会前・会期中、両方とも活用した。
※	自分は老眼なのでポケット版プログラムは全く利用できませんでしたが、若い人には便利ではないかと思います。
※	ポケット版プログラムは全く使わなかった。
※	不参加であったので強い意見ではないが、冊子体は不要だと思う。
※	冊子版のノートページをあと4ページほど増やしてほしい。
※	参加していないので良い悪い等の感想は特にありません。
※	ポケット版は便利そうだったが、老眼で見えないので役には立たなかった。
※	参加できませんでした
※	年のせいで年会プログラム集(冊子版)・ポケット版プログラムの小さな字を読むことが出来ずすべてITシステムに頼ったがWiFiが届かない場所があったのが残念だ。
※	年会前・会期中ともITシステム、冊子版の両方を使用した。ポケット版プログラムは、文字が小さすぎて読めない。
※	各演題の要旨が読める訳ではないので、冊子版は不要。ポケット版も不要。印刷代、送料等、金の無駄。思い切って電子版のみにして、希望者のみ冊子を購入する形にすれば良いのでは。
※	年会前・会期中ともに、ITシステム・冊子版の両方を使用した。
※	ポケット版プログラムは不要。
※	WEBシステムやアプリに面倒さを感じる人にとって、冊子版はある程度必要だろう。ところでここ数年Late-breaking abstractsのブースがかなり盛況になってきているように感じるが、皆はどう思っているだろうか。欲しい人だけが当日手にできるような、非常に雑な体裁のLate-breaking abstractsプログラム集を配布したほうが学会としては今後プラスのような気がする。
※	利用していないのでわかりません。
※	アプリは便利。冊子は小さくなって持ち運びやすく便利。全部アプリでもいいが、at a glanceのような小さい冊子は残して欲しい(電波状況が悪い時とか紙媒体あると便利)
※	上述のとおり。

質問14. 本年会の開催形式(単独開催・他学会協賛形式による連携※)について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	企画側なので評価は控えるが、それなりに盛り上がり有益だったのではないかなと思う。
※	生態学会よりも生化学会と一緒にって欲しい。
※	異なる学会が合同で年会をする意味がわからない。だったら、一つの学会になれば？と言いたくなる。
※	生態学会との合同開催にどれだけ意義があったのか分からなかった。
※	日本生化学会とも合同にした方が良い。
※	生化学会と同時開催とすべき
※	生態学会との連携は良いが、それでは物足りなかった。
※	参加できなかったの、分からない。
※	生命科学系の学会は改組、再編すべき。
※	日本生物物理学会 との共同研究推進を！！
※	生態学会と分子生物学会との共催は相補的でシナジーが高いと感じました。一方で、以前のConBIOは非常に種々雑多で、良くなかったように感じます。
※	新たな研究領域の開拓は両学会にとって有益であり、特に若手の研究者の交流と刺激は大事であると思う
※	特に交流できる部分は無かった。というか、違いが分からない。
※	生態学会との合同ワークショップ・フォーラムは、双方の研究分野がかなりオーバーラップしてきていることがわかり興味深かった。
※	参加していないので、わからない
※	パート1に参加しました。分子生物学は技術面での最先端な研究報告が多いですが、生態学はもっと広い視野で生物をとらえていて、互いに持たない部分を補い合える立場であると感じました。とても面白かったです。
※	なぜ生態学会なのか？生化学会の方が分生に圧倒的に近いのに。
※	1学会との共催なら、中途半端。するなら合同年会
※	生態学会は意識しなかった。
※	もっと、他の学会とのコラボを実現させたい。
※	大変刺激的だった。もっと多くの分子生物学会会員に参加してもらってよかったと思う。
※	現在でも分子生物学の根源的な研究は継続中しているものの、多彩な研究におけるツールとしての重要性がある。その柔軟性を生かすためにも連携を続けるのは賛成。
※	連携自体には反対しないが、なぜ生態学会なのか不明。
※	そもそも生態学会と連携していることに気づけなかった。
※	分子生物学と生態学とではオーサーシップの文化が大きく違う。生態学においては学生がコレスポンドングオーサーとなるケースも多く、ギフトオーサーシップも少ない。医学や分子生物学でオーサーシップについての文化の是正が進まない、連携過程でいずれ大きな軋轢やトラブルが生まれてくると思う。
※	分子を見たい生態学者と、生態・生物を知りたい分子学者が交流するなどということは、とうの大昔から行われていることであって、全く目新しさを感じなかった。むしろ物理学会・化学学会・工学学会・日本医学会のような別畑の学会とコラボしたほうが良い。
※	とくに協賛による開催の利点を見つけることができなかった。

質問15-3. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (協賛形式の連携が可能な学会)

回答者 番号	協賛形式の連携が可能な学会記述
※	生物物理学会
※	参加者が増えすぎて、学会の日程が伸びてしまう(4日以上)ことは避けて欲しい。全日程に参加するのが難しくなる。
※	生化学会
※	生物系は、学会が多すぎてその運営や年会費だけで多忙になる。もっと学会を統合させて、化学や物理のように少なくしてはどうか。
※	生物物理学会など
※	生化学会、細胞生物学会、発生生物学会
※	日本生物物理学会
※	バイオインフォマティクス系学会
※	ウイルス学会、遺伝子細胞治療学会
※	進化学会分子生物学会とのアフィニティーは高いと思います。植物生理学会植物関連の発表が比較的少ないという印象なので、植物系の学会との連携をしてもよいかもしれない。
※	会員がオーバーラップしない様な学会が良いと思います。物理学、宇宙、進化、など。
※	日本RNA学会
※	Q4で挙げた学会すべて
※	植物生理学会
※	物理学会・化学学会・工学学会・日本医学会

質問15-6. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (合同開催が可能な学会)

回答者 番号	合同開催が可能な学会記述
※	細胞生物学会 発生生物学会
※	日本細胞生物学会
※	生物物理などもよいかもしれませんが、学会規模が大きすぎると魅力半減かもしれません。いくつかのセッション(分野)を合同にするのはどうでしょう?(参加費が難しい気もしますが)
※	日本発生生物学会
※	生化学会、細胞生物学会、発生生物学会
※	免疫学会
※	ConBio2017のように様々な学会との合同開催の試みを希望します。また、声をかけていない学会からの応募があっても良いと思います。
※	日本生化学会、日本ミトコンドリア学会、日本RNA学会
※	人類遺伝学会
※	生化学会、生理学会や解剖学会や病態関連。どの国でも実現していない今のうちに、アジアのExperimental biologyを目指してほしい。
※	学会が乱立し、分子生物学会に参加していない知り合いも多かった。なので学会数を減らすために合同開催を支持します。
※	細胞生物学会
※	互いの学会の年会長同士がツーカーの仲であることが、合同開催の大前提。それでも双方の事務局の負担やストレスは相当のものだと思う。合同開催に賛同する方は、ぜひ自ら年会長に立候補して頂きたいが、各方面に働きかける負担を考えるととても勤められない。
※	Q4で挙げた学会すべて
※	食品科学工学会
※	再生医療学会とか遺伝子治療学会とか小さめの学会もプラスすると面白い

質問15-8. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	これからの日本の若手研究者のためには、生化学会と分子生物学会を一つにして、生物系の一大圧力団体を作るしかない。生態学会や細胞生物学会と一緒にしても構わないが、人数的・歴史的にも生化学会と分子生物学会が双壁であることは論を待たないので、この二つが一緒になることが非常に重要。特に最近、分子生物学会のほうが研究者の視野が狭く、海外の動向や流行に流される研究の割合が高いし、理事や執行部が旧帝大や理研の研究者ばかりで、日本全体のことや将来の日本のことを真剣に考えていないと強く感じる。この点では生化学会のほうが非常にまともである。
※	他の学会、特に交わりがないような学会との合同を企画してほしい。発生、細胞生物、生化学、RNA学会などは一緒にやってもあまり代わり映えがしない。普段演題がないような学会との合同が望ましい。
※	他の学会に参加したければ、その学会に行けばいいこと。わざわざ合同で年会をする意味がわからない。その分、ワークショップの数が減るのはおかし。
※	要旨集が生態学会のみでの発行だったので、それが不満だった。
※	分子生物学会と生化学会、この大きな学会は2つも要らない。
※	もう少し分けてもいいと思う。みたい演題が重なって見られないこともあったし、会場に入ることができずに諦めたものもあった。
※	余り多すぎると、見たいワークショップが重なるのと、集中できない。また人気のワークショップが入室が難しくなる。今年の学会は少し参加者が少なく感じたが、集中できたのはむしろ良かったと思う。
※	生化学会との合同開催を定期的に行うか、合併すれば1年にこれだけ出ればよい学会となるため参加者側としては有難い。生化学会以外は、分子生物学会よりはるかに規模が小さいため分子生物学会に吸収される形になってしまう気がします。そのため合同で開催しても、分子生物学会の場所を借りてその小さい学会を並行して行う、ということになるため、参加者が分散する可能性があり、小さい学会にはあまり有難くないのではないのでしょうか。
※	生化との共催は3-4年に一度ぐらいでよい。その他との共催はするメリットがよくわかない。共催したい学会はそもそも単独できないのなら、存在理由から問い直すべきではないか。ConBioだけはもう絶対にやめてほしい。
※	単独開催でも、すでに規模が大きすぎるように感じています
※	色々な学会で同じような話を聞くのは無駄が多いようにも思いますので、共催は良いと思います。ただ、ConBIOのようにあまりにも多くの学会をまとめすぎると、大きくなりすぎて焦点がぶれるので、2-3学会を限度にさせていただきたいと存じます。生態学会と分子生物学会との共催は相補的でシナジーが高いと感じましたが、生化学会と合同にする意味はよくわからずにあります(合同の時とそうでないときの違いが不明確な気がします)。
※	メリットもデメリットもあるので、毎年いろいろと変えればよいと思う。
※	今後も単独開催が続き、閉塞感を感じる。若い研究者や将来ためというよりも、現在の研究者のためという年會にしか見えない。これだけの演題数を予算的な理由というだけで3日間で作るのは全く研究のリソースとしての活かせていない。
※	分子生物学会自体が既に規模が大きく、内容はほぼ合同年會ではないだろうか。複数の学会に所属している方が、1回にまとめていきたいか、学会参加実績を考慮して複数の方がいいかという問題？
※	単独と生化学会との共催との違いを実感できない。生命科学を総合した大型年會は年一回あれば十分ではないか。
※	固定しないでフレキシブルに行うのが良い
※	生化学会とは学会の合併も含めて検討すべきだと思います。
※	自分たち(分子生物学会会員)の学会であることを認識できてよかった。
※	生化学会と同時開催時はいつもがさつな感じになり、うっとうしい。人が多ければよいというものでもない。ワークショップやシンポジウムの話題の方よりも激しくなり、幅が狭くなる印象がある。

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	会期が3日だったが、多少参加費が上がっても4日で行ってほしい。ポスター会場に座れる椅子がもっと多くあるとよかった。
※	実験ノートに関する研究倫理のセッションは非常によかった。
※	クロークが早く終了し最終日の荷物の持ち運びに苦労しました(狭い会場に大きな荷物を持ち込む必要がありました)。学会開催時間は継続してほしいです。
※	企業用の名刺カード、意外と良かったです。(意外というのは、当日まではQRコード読み取りにすれば、とか思ってたのですが、当日現場では名刺を求められましたので)
※	運営事務局、組織委員会の対応が迅速で良かった。不慣れなオーガナイザーで様々迷惑をお掛けしたと思う。
※	参加者全員が着席して発表を聞けるように、できるだけ大きな部屋を確保してほしい。少々、空席があってもいいと思う。
※	会期中はiPhoneは全く使用しなかった。他の大会や学会で便利なこともあったが、今回は今ひとつ使用する意義が感じられなかった。何故毎年こうも波があるのか。良かった試みは、一回きりで終わりにするのではなく、継続的に採用するようにしてほしい。また「オリジナリティーを発信する」テーマだったようだが、シンポジウム・ワークショップ共にそれを感じられるものが本当にあったのか甚だ疑問。
※	是非、ポスター賞を設けてほしい。ポスター賞があると、学生の意気込みが明らかに向上する。
※	大きすぎて落ち着いて見られない。
※	前回の大会(ConBio2017)の時よりも、高校生の口頭発表を聴くスペースが広くなり、よくなった。座長の働きが非常に良かった。〇〇〇先生は余人をもって代え難い。大変な役目でしょうが、来年度以降も引き受けて欲しいです。
※	高校生の発表がクオリティ高かった。高校が特定の都市に偏りがあるのは何か理由があるのでしょうか。
※	単独開催で、分生らしい新しい視点からのシンポやWSが企画されて大変良かったと思います。
※	今回も盛況で良かったと思います。
※	常時の分子生物学会と生化学会の合同開催を支持します。
※	生殖系のテーマのシンポやワークショップがなくて物足りない
※	日本分子生物学会、日本細胞生物学会、日本生化学会、日本発生生物学会は、演者もポスター発表もオーバラップしているものが多いので、毎年、全学会合同開催にさせていただけると時間の節約になり、大変助かります。
※	英語でのセッションは異なる分野の勉強には不向きだと思う。
※	5,000人を超える人が集まっている割には、口頭発表をしている人が毎年代わり映えしない。
※	今年の年会は、昨年との比較で、とにかくレベルの落ち方が激しかった。興味深い演題や企画が少なく、非常に残念な会だった。ConBio形式の良さが、改めて如実に感じられた。大変だとは思いますが、ConBio形式の会を継続的、定期的に開催できるようにすることが、日本の基礎生命科学系の学術の発展につながると思う。そのためのイニシアティブをとるのが、分子生物学会の使命だと思う。
※	研究発表の質が悪すぎる。量が多すぎる。
※	若手、女性の活躍の場が少ないように感じられるので、ワークショップなどのセッションは若手と女性の比率を義務付けるようにすべき。
※	上にも書きましたが、全体的に身内が固まってシンポジウムをやってる印象を強く受けます。オーガナイザーの2人や演者にconflict of interestがないプロポーザルを優先するなどの措置があればいいと思います。
※	総会を各会員が責任持って参加できるように、時間帯や会場規模を考慮すべきだと思う。*お任せは、よくないと思います。
※	昨年のように、ワークショップの発表の会期後配信はあるのでしょうか？もしあれば今後も続けて欲しいです。
※	2020年は、コンパクトな会でよろしい。
※	日本語で行うワークショップを減らさないと欲しいです。英語で行うワークショップは、自分の専門分野以外、なかなかついていけませんでしたが(ただし、多くのネイティブスピーカーの発表はわかりやすかったです)。せっかくいろいろな分野を勉強するために高い旅費と参加費を払って学会に参加しているので、ぜひご検討ください。専門分野の英語のセッションを開きたいときは、国際学会へ行けば良いと思っています。
※	今回の学会は、会場間を比較的移動しやすく、良い会場だと思いました。また、学会の規模としても、このくらいが良いと感じました。
※	ポスター発表が他学会と比べ、盛り上がっていたと思います。
※	・狭いポスター会場で馬鹿でかいリュックを背負っている人が多いが、マナーでは防げないので注意事項として明文化してやめさせて欲しい。・3日間開催はやはり無理がある。
※	電源を各会場内で使用出来る様に設置してほしい。
※	運営の皆様、お疲れ様でした。
※	今回の分子生物学会はレベルが高く、興味深い内容の発表が非常に多かったため、大変勉強になり触発されました。内容的に、素晴らしい学会だったと思います。ありがとうございました。日本の研究レベルを維持する上で、分子生物学会の果たす役割は大きいと思いました。そのため、安易な共催ではなく、単独開催もしくは連携の試みにとどめておくべきだと思います。たとえば、学会運営側の都合(複数の学会を運営することが大変であるがゆえにまとめてしまうなど)で一括開催にしてしまうのではなく、参加者のことを考えた視点から開催形式を決定していただけたことが重要かと存じます。
※	日程がタイトで、特に夜遅くなるのが良くなかった。無理に詰め込まずにもう一日くらい日程を伸ばしたほうが良かった。また、海外からの研究者をもっと呼び、楽しんでもらうために、トークは基本英語にしたほうがいい。

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者 番号	意見記述
※	昨今の学会事情を見ると、研究成果と発表の場のバランスが取れていないように感じる。同じ成果、または多少の進歩を年間に何回も発表するのは好ましくない。現代のIT技術の進歩を考えれば現地通しでのコミュニケーションはさほど難しいものでもなく、学会という括りに関わらず無駄なミーティングが多いと思われる。そういう意味で、共同開催といった1年間の成果を発表するような一大大会の開催は支持する。もし可能であれば、年間に研究費から支出されている出張費の調査アンケートも実施していただきたい。これが削減できれば、本来の研究に投資される金額が増えると思う。
※	今回の学会は、会場間を比較的移動しやすく、良い会場だと思いました。また、学会の規模としても、このくらいが良いと感じました。
※	海外の学会に比べ、質疑応答が少なかった。逆に、ごく少数のシンポジウムでは質疑応答が多すぎて、時間が無駄に延長されていた。
※	規模が大きくなり、開催場所が限られるのが問題かも知れない
※	「第41回年会は「日本からオリジナリティーを発信しよう」というテーマのもとに、横浜で開催しました」——— このテーマは大変重要と思います。そのために今回特にどんな工夫をしたかを明示して、その評価や改善のアイデアなどを問う形のアンケートがあればよいのに、と思いました。全体的に今回の年会は充実していたと思います。今後の取り組みに期待します。
※	佐藤優氏の講演は大変興味深い内容であった。今後もこのような、異分野の著名人の講演を是非拝聴したい。講演時間を延ばして頂けると幸いです。
※	今回はポスター発表に充分時間をとっていることが特に良かった。
※	幾つかのセッション(2AW-06ほか)でシンポジウム会場が狭すぎて立ち見すらできなかった
※	開催者の負担が大きいのに見え、2年おき3年おき開催でも良いと思った。
※	インターネット上のアクセスがほぼできず、酷かった。
※	ポスター会場での高校生発表はたいへんよかった。参加していた高校生たちにとっても励みになったことと思います。全体的にコンパクトでよい学会でした。
※	若手がオーガナイザーなどを務めたワークショップが多く、それによって全体的に活力があってフレッシュな年会だったと感じました。この試みを継続して欲しいと考えています。
※	海外の学会に行くと、日本の研究レベルとの差を強く感じます。それは研究費の違いとも言え、海外との差を埋めるのはかなり難しいと思います。しかし世界の最先端がどのような状況にあるのか、もう少し海外の研究者に発表をお願いしてみたいかがでしょうか？特に、海外の学会に参加できない研究者のためにも有用かと思えます。
※	学会自体が大きくなりすぎていて、分野が大きく異なると見に行くこともまず無い。これでは、科学の発展に寄与できない。なるべく他分野の内容を見て、知って、自分の分野の研究に生かせるように各分野とも深い部分の説明の前のイントロとなる情報(概略)を提供し、異分野の研究者が理解しやすいようにしておいてもらいたい。イメージはイントロのイントロ。
※	組織委員会の皆さま、大変お疲れ様でした。長い出張でも飽きさせないプログラムになっていたと思います。有り難うございました。
※	Webシステムが使えるようになる時期をもう少し早めてほしい。朝が早く、夜が遅い割に午後空白時間が長いのが辛かった。
※	よく知っている分野以外の講演を理解するため、日本語でのシンポジウムや講演を増やしてほしい。
※	シンポジウムやワークショップのオーガナイザー、ポスターディスカッサー毎年、特定の人ばかり役を務めていると思う。発表内容には変化が見られるのに何故だろうか？広く色々な人材を登用するように工夫する必要があると思う。
※	久しぶりに全日程参加し、素晴らしいプログラムを楽しませていただきました。どうも有り難うございました。組織委員会の皆様、お疲れ様でした。
※	キャリアパス委員会のランチョンセミナーでは卓越研究員制度の実態をもっと若手に伝えるべき。結局、財務省が、、、のような結論なんてツイッターレベルのことなのでその先がないなら開催して議論する意味はない。
※	医学や応用が主流になってくるのかも知れませんが、基礎科学も最低限のシンポジウム数とワークショップ数を今後も確保していただきたいと思っています。
※	個人的には、若い世代向けの「フェス」と認識しています。それならそれで、過去の年会の形式等にとらわれず、斬新な企画を毎年入れ、試行錯誤しながら続けていくのがよいと思います。私くらいの年代(40代後半)になると、ひとつの会場にずっと座ってゆっくり聞きたいという気持ちも正直あります。今年は企業ブースでいろいろな製品情報を仕入れることができたのが収穫でした。
※	ワークショップの構成員が仲間内で固まっている印象があり、毎年改善されていない。その点、[1PW-17]まだまだオモロイ生き物の分子生物学は良かった。(「ワークショップのオーガナイザーや講演者がそれぞれまったく初対面という全く白紙状態で企画された清々しいワークショップが面白かった」と、〇〇先生もツイートされていた)。また、育児中の方が研究成果とともにどうやって切り抜けてきたかも紹介するようなワークショップがあってもいいかと思う。切り抜け方は十人十色だと思うので、なるべく沢山の事例を聞きたい。
※	ランチョンセミナーで途中で退出するのは、弁当目当てのような感じで、提供企業の方に失礼ではないでしょうか。途中退出予定のある方は参加ご遠慮下さいとか、途中退出(トイレ除く)禁止にしたほうがよいと思います。
※	規模のわりに年々活気がなくなっているように感じる。一つの分野の発表を複数に分散していることのデメリットかもしれない。
※	とても良く構成されていると思いました。ただ、講演者、聴講者ともほとんど日本人だけの英語セッションで、講演者の英語力がやや不足しているために言いたいことが伝わらず、残念に感じることはありました。
※	研究倫理問題については、フォーラムや特別シンポジウムではなく、ワークショップの形式で真面目に学問的に討議した方が良く強く感じた。
※	活動が活発で評価できる。新たな試みも取り入れられており、常に研究の流れを見て活動している事がうかがえる。今後とも、この姿勢で取り組んでいただきたい。

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者 番号	意見記述
※	プレナリーセッションがなかったのが、大変残念でした。予算や企画運営の点からも、合同年会(ConBio形式)に統一すべきではないかと思えます。そうしないと盛り上がりません。
※	Plenary lecture や、特別講演など、学会に参加しなければ聴けないような講演が企画されなかったのは大変残念でした。次回の年会では、Plenary lecture や特別講演の開催を希望します。
※	部屋が聴衆であふれた場合の対応策は、もっと綿密に練ったほうが良いと思う。廊下がうるさかったり、モニター前で陣取っていたり、にもかかわらず空席が有ったり、入口付近でトウセンボされたり…。どれもこれもせつかく面白い発表をしている発表者に対して申し訳ない態度で、これらを学会として本腰入れて対策しないのは失礼だろう。
※	今年がどうだったのか知りませんが、ランチョンセミナーでいい年をした方が、お弁当目当てで、セミナーを全く聞いていないというのを多々見かけます。まあ、学生さんは、お金がないから仕方ないかと思えますが、PIと思われる方がやっている、どうも一般的道徳、配慮に欠けるのではないかと思います。極端に言えば、見苦しいです。個人の良識の問題ではありますが、何とかならないものでしょうか。
※	だんだん発表者数やセッションが減って来ていて寂しく思う。合同学会や、若手をもっと応援するようなプログラムと、一流どころの融合的な学会が望ましい。
※	お疲れ様でした。今後ともよろしく願いいたします。
※	今回、大学生を11人連れて行った。大学生は無料なので助かり、またポケット版プログラムが彼らのために役立った。今後、若手を育てるために学部学生、高校生も巻き込んでいくと良いと思う。高校生のポスターを楽しみにしていたが、時間が限られていたように見ることができずに残念だった。
※	さまざまな分野の話が聴けてよかったです。これが分生の魅力ですね。
※	ランチョンセミナーの企業の案内が悪く、どこで待ったらよいかわからない人が違う列に並んでしまっていて、ホールで混乱していた。各企業、きちんとホールで道案内をすべきである。今回は会場で四肢が不自由な方の参加をよく見かけた。通路も混み合い、少し座って休めるような箇所も少なかったため、杖をつきながらの参加は大変だったと思う。しかし、四肢が不自由なことで学会参加を諦める必要はなく、もっと参加しやすく、過ごしやすくするように会場設営を工夫すべきだと思う。